

漢方薬の約7割に使われる生薬「甘草(カンゾウ)」が「レアプラント(希少植物)」として企業などから熱い視線を集めている。漢方薬ブームに加え、抗生物質の代替可能性の研究も進む。旺盛な

需要に対し、最大供給国の中国の輸出規制で相場は高騰気味。商品作物としての将来性に目を付けた製薬業界以外の企業も事業参入をもくろむなど、甘草市場は「ミニバブル」の様相を見せている。

甘草ビジネスに熱い視線

中国輸出規制で相場高騰

栽培中の甘草の苗—青森県新郷村(新郷村ふるさと活性化公社提供)



乾燥させた生薬用の甘草

製薬業以外にも事業参入

村の一大産業に料になる。今年7月、村の公社が、十和田湖の東側、秋田県境に近い青森県新郷村(新日本製薬(福岡)と甘草の研究栽培で提携。村。人口約3千人で冬は氷点下10度を下回る。この根の部分が漢方薬原料になる。東北大の鈴木啓一教授(動物遺性の研究も進む。東北大は再来年、須藤良美村長は「多くの農家が手掛ければ地域の一大産業になる。農家も村も変わる」と期待する。

甘草はマメ科の多年草で、アレルギー性炎症疾患の約4倍作られ、抗炎症作用も認められた。鈴木教授は「疾病予防効果があると考えられる。豚は代謝、免疫機能

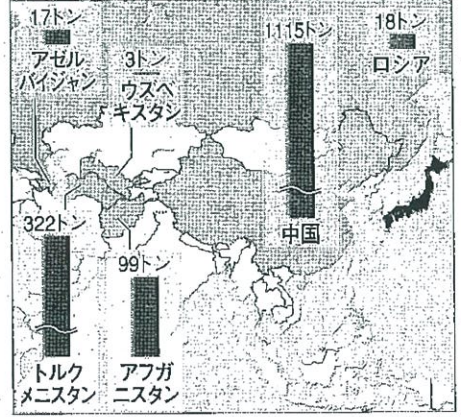
がヒトと似ており、ヒトへの応用も考えられる」と評価する。抗生物質への過度な依存が問題となる中、注目の研究だ。

レアアース状態

一方、中国は乱獲の深刻化で2000年、輸出総量の縮小や許可制導入など輸出規制を始めた。市場では薬用植物が全般的に調達困難になると懸念が広がり価格が上昇している。

生薬製剤協会によると、日本の生薬用甘草の輸入比率は100%で、漢方薬大手のツムラは安定調達のため人工栽培に

日本の主な甘草輸入相手国(2011年1~8月)



経済特集

この人この仕事

っと詳しい研究をする大学院に進んでからは、お客さんの前で見る芝居の勉強も始めた。研究を生かして会社に入るよりも、自分でつくり上げたものを人に楽しんでもらう仕事が

Q 会社の辞め方で、もらえる失業保険額が違ってくるって聞きました。

失業保険は、会社の辞め方によって2倍に業保険が支給。これに

は、ハローワークに行くと手続きをすることで4週間後の失業認定目につくことからトラブ再度出向き、失業状態ルも多くなっています。セクハラやパワハラ